

令和6年度 自己評価報告書

	成果と課題	今後の取組
確かな学力	○授業 ・「協同学習」と「支え合いの人間関係作り」を2つの柱にして、「若桜学園学びのスタイル」の研究を計画的に進めることができた。 ・日常の授業を公開し、評価し合う取り組み「OJT」（本校独自の名称）は、4～5人のグループを組んで行うことで、確実に授業を見合うことができた。経験の少ない教員の育成やベテラン教師の持つ指導力の伝達等で成果を上げた。 ・月に1回、仲間づくりで活用できるレクリエーションを紹介するミニ研修会を実施した。 ・児童生徒アンケートの質問項目「学習したことがよくわかる」で肯定的評価が91%、「先生はよくわかるように教えてくれる」で95%と生徒の評価は高かったが、保護者アンケートでは「お子さんは、学習内容を身につけている」で69%、「お子さんは、授業をわかりやすいと言っている」で65%と低く、児童生徒との差が大きかった。（毎年の傾向となっている。） ・タブレットは、電子黒板やデジタル教科書などと併せて、活用することができた。	・実践の成果を検証しながら、より効果的な協同学習をめざして、研究を進めていく。 ・週案やホワイトボードでOJTの情報を共有するなどして、参加者を増やす工夫をしていく。 ・協同学習の礎となる互恵的な人間関係、支え合いの人間関係を育む仲間づくりに力を入れる。 ・学習規律をしっかり身に付けさせる。 ・基礎学力の定着にも力を入れる。 ・過支援にならないような手立てについて再考していく。
	○家庭学習 ・児童生徒アンケートの「宿題（家庭学習の習慣）が身につけている」で肯定的評価が84%、保護者アンケートでは70%、教職員アンケートでは41%であった。児童生徒は昨年度とほぼ同じ数値であったが、保護者は、前年比プラス7%、教職員はマイナス19%と大きな差が見られた。 ・「探究」の取組は、若桜学園の子どもたちに定着し、主体的に深く学ぶよい機会となっている。内容が充実しており、多様な分野で、質の高い作品が提出されている。理科や社会の発表会で、多くの作品が入賞している。	・基礎学力の積み上げに家庭学習の定着は欠かせない。保護者の協力を得ながら、児童生徒の家庭学習への意欲を高める。 ・デジタル学習支援ソフトの家庭での活用を推進する。 ・「探究」の取組を継続し、子どもたちの活躍の場として、発表会、コンテストなどへ積極的に参加する。

豊かな心	○あいさつ・言葉遣い ・児童生徒アンケートの「あいさつを自分からできている」は92%であった。一方、保護者は「お子さんは、場に応じてきちんとあいさつができる」で74%、教職員の「児童生徒はあいさつや言葉遣いがよい」は50%と低い。昨年に引き続き、児童生徒会で朝のあいさつ運動を行っているが、児童生徒の意識は昨年以上には高まらなかった。小学生集会で生徒指導担当があいさつの大切さを児童に伝えたところ、あいさつを意識的する児童が増えた。	・児童生徒会の朝のあいさつ運動をはじめ、取り組んでいるPR活動は継続していく。 ・教職員が、児童生徒があいさつを進んでできるような指導を工夫していく。 ・学校支援ボランティアの方や地域の方との交流の機会をとらえて、あいさつや言葉遣いについて、指導していく。
	○読書 ・児童生徒アンケートの「読書をよくしている」は、R4年度65%、R5年度71%、本年度73%と少しずつ増加している。 ・ライフスタイル自己点検では、1日の読書時間が15分以内の児童生徒は、年々減少傾向にあるが、後期ブロックでは増加していた。 ・図書の貸し出し数は、小学生は1.5倍に増えたが、中学生は増えていない。 ・教職員の「児童生徒の読む本の冊数が伸びるよう、計画的に声かけや指導をしている。」は、64%と昨年と同じ低い数値であったが、肯定的評価のA「よくあてはまる」は16%で、昨年度の8%から倍増していた。	・教職員からの読書を促す声かけや指導をしっかりと行っていく。 ・中学生の図書室利用が増えるような委員会活動を推進していく。
	○ルールや決まり ・児童生徒アンケートの「学校のきまりや約束事をよく守っている」で93%、保護者の「お子さんは、社会のルールを守って生活してる」で89%で高い評価であったが、教職員の「児童生徒は社会のルールを守って生活している」は80%（昨年度96%）と下がっていた。 ・4月と10月に外部機関から講師を招き、6～9年生を対象に生活指導教室を実施した。	・ルールやきまりの大切さについて考えることは、学習に取り組む姿勢やいじめの未然防止にもつながるので、継続して指導していく。
	○仲間づくり	

・色別縦割り班（１年生から９年生までの全校児童生徒を４つの色別班に編成）で、全校遠足、運動会、マラソン大会、全校遊びなどで縦割り活動を行った。本年度は、初めての試みであった全校親子会『学校かくれんぼ』でも、色別の縦割り班で活動した。中学生を中心に子どもたちの活躍する場面が見られた。 ・本校の伝統となっている色別活動は、異学年がつながり、リーダーとなる学年の児童生徒の自己有用感を高め、諸活動への主体的な取り組みにつながっている。 ・児童生徒アンケートの「学校、学級には仲のよい友達がいる」は、肯定的評価が９３％、「他の学年の人とも遊んだり話したりしている」で８６％、「周りの人とつながり、高め合おうとしている」９１％であった。縦割り班活動をはじめ、異学年交流を行うことで、全校での仲間づくりができた。 ・児童生徒アンケートの「先生は、困ったことがあったら相談に応じてくれる」が９１％、「困っている友だちがいたら助けている」が９７％であった。	・色別縦割り班は、取組の内容や目的に合わせて、有効に活用していく。 ・幼少時から一緒に過ごし、気心の知れた間柄でも、自分の考えや気持ちをきちんと言葉にして相手に伝え、よりよい人間関係作りをすることの大切さを、縦割り活動や日々の活動の中で理解させていく。 ・いじめアンケートを定期的に実施し、いじめの未然防止、早期発見に努める。 ・職員全体で、児童生徒の様子をよく観察し、児童生徒の困り感に早期に気づき、対応していく。
○学校行事 ・氷ノ山全校遠足で、５年ぶりのカレー作りを計画した。雨天により中止となったが、色別縦割り班で、８・９年生が考えた活動を行い、縦の絆を深めることができた。 ・運動会は、熱中症への対応として、半日開催で実施した。記録的猛暑で、暑さ対策に万全を期して練習や当日運営を行った。 ・学習発表会は、どの学年も日頃の学習を発展させた内容で、完成度が高かった。 ・保護者アンケートの「お子さんは、学校行事を楽しみ、積極的に参加している」で９６％、教職員アンケートの「児童生徒は学校行事を楽しみに積極的に参加している」で１００％であった。	・明確なねらいを設置し、その達成に向けてどのような活動を仕組んでいくのか考え、よりよい活動を目指して改善していく。 ・運動会は、開催時期や演技内容の見直しを図る。

体 づ く り	○基本的生活習慣 ・ライフスタイル自己点検を、年2回、4月と11月に実施した。結果（レーダーチャート）を懇談で活用し、家庭との連携を図った。 ・「ハッピーすこやか週間」を年3回実施した。期間は、第1回と第3回を2週間、第2回を3週間とした。ハッピーすこやか習慣の取組で、睡眠や朝食の改善が見られた。 ・前期ブロックの「21時30分以降」の就寝（6割）と後期ブロックの「24時以降」の就寝（35%）が増加していた。 ・1日にスマホ、パソコン、タブレット、ゲームに触れる時間「2時間以上」が急増している前・後期ブロックで増加傾向にある。 ・中後期ブロックを対象に、鳥取県理学療法士会より講師を招き「姿勢教室」を実施した。	・衛生美化委員による「朝の生活改善」の啓発活動（掲示物、呼びかけ等）を継続して行う。 ・わかさこども園との連携、保護者への啓発を継続して推進し、児童生徒の生活習慣の改善、自己管理能力の育成に取り組んでいく。 ・テレビ、スマートフォン、タブレット等、メディア接触時間が急増している。時間の使い方を見直し、ルールを家庭と共有していく。 ・よい姿勢づくりは体づくり委員会の活動に取り入れ、継続した取組につなげる。
	○体力づくり ・体づくり委員会で、レッツラン（1～6年）、昼休憩の全校遊び、1ミニッツエクササイズなどを行い、運動の機会を増やし、運動への意識を高めることができた。 ・持久力は高いが、短距離走、ボール投げに課題がある。 ・本年度は校庭の積雪量が多く、小学生の放課後スキー教室（クロスカントリー）を実施することができた。	・走力、投力の向上を意識した取組を、年間を通して実施する。 ・投力については、小学校段階から、正しいボールの投げ方を身に付けさせていく。 ・放課後スキー教室は積雪量に左右されるが、本校の特色ある取組として継続して実施していく。
	○食育 ・体づくり委員会による「完食デー」が定着し、完食を意識する生徒が増えた。 ・学年ごとに季節や、地域の食材を考えた「おすすめ献立」を実施した。 ・給食時間における食の指導、朝食摂取や内容についての啓発を年間を通して行った。	・朝食摂取率が減少しているので、家庭と連携し、「毎日食べる」児童生徒を増やす取組を行う。 ・委員会との連携、食に関する指導、献立内容などを工夫し、残菜率の目標を達成して

		いく。
若桜から学ぶ	○総合的な学習 ・ 6年生の「若桜子どもシンポジウム」は、役場、議会、警察、観光協会等の方に参加していただき、「若桜町をより元気にするために、また若桜町をより住みよい町にするために」をテーマに提言を行った。今年も、参観日の授業として開催し、6年生保護者にも見ていただいた。 ・ 7年生は、総合的な学習「若桜で生きる」で、若桜町地域福祉センター・ドリーミーのデイサービス利用者との交流を通して、地域の人とふれあう時間をもつことができた。体験をもとにした演劇を学習発表会で発表した。 ・ 8年生の職場体験は、町内14事業所に協力していただき、3日間の日程で実施することができた。 ・ 9年生が、「若桜町おこしプロジェクト」で、「えごまドーナツ」を開発し、商品化することができた。地域のイベントでの販売も行った。	・ 6年生の修学旅行、7年生の広島平和研修、8年生の職場体験、9年生の修学旅行は、総合的な学習の中に計画的に組み入れ、それぞれのねらいを達成していく。 ・ 若桜をよく知り、若桜をPRしていく活動を、全校で推進していく。
	○特色ある学校 ・ 保護者アンケートの「学校は、特色ある教育活動を行っている」で79%、教育方針を保護者にわかりやすく伝えている」で76%、「学校は、児童生徒や学校の様子を、保護者に伝えている」で84%であった。 ・ 地域学校協働活動は、延べ170名を超えるボランティアの方の支援があり、本年度も、学習や校外活動を充実させることができた。 ・ 1～9年全学年で、和太鼓体験学習を実施した。地元若桜の伝統音楽に触れ、郷土愛を育むことができた。 ・ 保護者アンケートの、「授業参観日や懇談会などには、必ず出るようにしている」で99%、「PTA活動（親子会・リサイクル活動）には、積極的に参加している」で97%であった。保護者の学校行事等への参画率は高い。	・ 若桜学園の取り組んでいる特色ある教育活動を、HPを活用して、保護者、地域等へと伝える。 ・ 地域学校協働活動の内容や予定を地域にPRし、協力を求めている。